

中学校理科教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	札幌の大地を知る地域巡検(地域の地質の教材化のために) ～風景や景観を読み解く力を育てる理科(地学)教育を目指して～	
日 時	令和6年7月30日(火)	
会 場	地図と鉱石の山の手博物館 定山渓 ヤウスベツ ウスベツ地層 カッパ渓 石山緑地	
講 師	松田 義章 氏 (北海道総合地質学研究センター研究員・理事、北海道教育大学及び小樽商科大学非常勤講師)	
参加者	17名	
研修会 の 様 子		ウスベツ地層まで行き、松田氏の講義のもと札幌最古の岩石、約1.5億年前の付加体堆積物の観察を行った。
		カッパ渓では、松田氏の講義のもと、約100万年前のマグマだまりが形成した岩石である石英斑岩の観察を行った。
		カッパ渓にある岩石に小さな石英を観察することができた。参加者はハンマーなどを使い岩石を細かく砕きながら石英を採取していた。
		石山緑地では札幌の大地の生い立ちと小樽の大地の生い立ちについて松田氏の講義を通して学びを深めた。
		松田氏の熱意あふれる講義と、実際の地層や岩石の観察を通じて、非常に有意義な時間を過ごすことができた。今回の研修で得た知識と経験を、授業を通して生徒に伝えていく。